

# 「緑字企業報告書2012」に対する意見



関西大学大学院会計研究科 准教授  
大西 靖

### はじめに

ここでは、宝酒造株式会社（以下、宝酒造）が発行した『緑字企業報告書2012』の記載に基づいて、宝酒造のCSR活動について第三者としての意見を述べます。

宝酒造はCSR報告書である『緑字企業報告書』の前身として、1998年より『緑字決算報告書』と題した環境報告書を発行してきました。これは日本企業による環境報告としては非常に早い段階での取り組みです。

また、報告書本体では掲載しきれていない詳細情報については、宝酒造のウェブサイトですべて2002年まで遡って閲覧できます。このように、過去の情報の入手可能性を確保していることも、説明責任を重視する企業姿勢のひとつとして評価すべきでしょう。

### 内容について

#### ・環境保全

宝酒造では、社会および環境への活動の成果について、黒字や赤字といった財務的な言葉ではなく、環境への貢献を意味する「緑字」という言葉を独自に作り出して、活動成果の統合的な報告を行っています。緑字決算には2つの点で特徴があります。

第1の特徴は、多様なCSR活動の成果を、環境負荷削減と環境貢献推進という2つの側面に数値を統合して報告する取り組みです。企業が自社の活動成果について、環境や社会に貢献しているか否かを開示することは、非常に勇気のいる取り組みです。しかも、CSRに関する多様な問題はいずれも性質が異なるため、各問題の重要性の判断については学術的にも十分に答えが出ていません。以上のような理由から、個別企業が環境保全活動の成果を統合的に評価するという実践は、非常に少ないのが実情です。そのため、CSR活動の成果についての総合的な自己評価を行う緑字決算は、日本だけ

でなく世界的にも最先端の取り組みのひとつであると考えられます。

第2の特徴は、緑字決算の集計プロセスでステークホルダーの意見を反映させていることです。緑字決算の数値は、個別の活動実績についての目標達成度に重みづけ係数を掛けた結果の合計値として算出されます。この重みづけ係数を決定するために、宝酒造は独自にインターネット経由でアンケート調査を行い、その結果をもとに個別の活動についての相対的な重要性を算出しています。

CSR報告は環境や社会の様々な側面を対象とするため、報告にあたっては企業をとりまくステークホルダーの意見をどのように取り入れるかという点が重要な課題となります。現在の緑字決算の計算方法は、CSR活動の総合評価という重要なプロセスで、ステークホルダーの意見を反映させたものです。このことは、宝酒造によるCSR報告の風通しの良さを示しているといえます。

緑字決算の集計方法は3年ごとに改訂が続けられており、宝酒造の熱意を強く感じます。今年度の環境負荷削減に関する総合評価は、震災の影響によりマイナスとなっていますが、評価結果にかかわらず報告を継続する姿勢を今後も期待したいと思います。

#### ・安全性

食品の製造企業である宝酒造では、主要な社会的責任のひとつとして安全性の確保が挙げられます。この問題に関する宝酒造の対応として、品質管理と製品における情報開示が注目されます。

品質管理について、本年度の報告書では、まず発売100周年を迎えた宝焼酎を対象とした品質管理活動を集めています。さらに、ISO9001の全工場での取得や、品質設計、および原料の調達等について報告しています。特に、一部の輸

入原料や農産物原料を対象とした、残留農薬や重金属などの全ロットにわたる分析は、消費者にとって心強い取り組みといえるでしょう。食の安全は社会的に重要な課題ですので、今後も安全性の確認に関する取り組みを継続および拡充することが期待されます。

製品における情報開示として、本報告書では、製品におけるカロリー等の栄養成分やアレルギー物質、およびアルコールを、率先して自発的に表示する取り組みが報告されています。このような取り組みは、特にアルコール製品を取り扱う企業において誤飲の防止や啓発という観点から、今後も重要であると思われます。

### ・社会貢献

宝酒造は企業理念として「自然と社会と人間との調和」を掲げており、長年にわたって環境保全を中心とした社会貢献活動を行ってきたことが、本報告書から読み取れます。現在の活動で特筆すべき活動は、小学生を対象に稲作体験や自然観察などの環境教育を行う「宝酒造 田んぼの学校」です。この活動は、もち米の栽培をテーマとして本業の知見を生かした社会貢献活動であり、企業フィランソロピー大賞の特別賞を受賞したことも肯けます。また、自然環境や生物多様性保全のための活動や研究を四半世紀以上にわたって助成している、「TaKaRaハーモニストファンド」も、重要な取り組みといえるでしょう。

### おわりに

現在では、CSR報告を財務報告に統合するための議論が、国際統合報告委員会（IIRC）によって進展しつつあります。このことは、企業評価にあたって、CSRに関する側面を重視するという傾向が、従来よりもはるかに強くなっていることを意味しています。

したがって、今後はCSRを企業経営のなかでどのように位置づけて、組織的に実施するかという問いを、すべての企業が真剣に検討する必要があると考えられます。とりわけ、経営者のCSRに対する姿勢をどのように示すか、そしてCSR活動と経営管理システムとの連携をどのように行うかという点は、非常に重要です。

宝酒造は、早くからCSRの重要性に着目して、独自に先進性の高い取り組みを行ってきた実績を持つ企業です。今後は、先進性の高い取り組みをさらに発展させるとともに、CSRの取り組みを組織全体に拡充することが期待されます。

### 表紙について

この写真は、当社の主催する社会・環境プログラム「宝酒造 田んぼの学校」<収穫編>で撮影されたもので、参加されたお子さんが刈り取った稲をはずに掛けています。私たちは、このいきいきとした表情から、「皆様いきいきをお届けできる企業」であり続けたいという当社の想いがより伝わると考え、表紙写真に選定しました。



### 編集後記

本報告書では、一企業市民として、社会のさまざまなステークホルダーの皆様とのかかわりをご報告しています。

本年度の特集では、「おかげさまで宝焼酎は発売100周年」と題し、大正元年から始まる宝焼酎100年間の歩みを紹介するとともに、その年の間に培った経験と技術に基づいた品質へのこだわりや消費者の方々の関心が高い安全安心への取り組みについても説明しています。

当社のCSR（企業の社会的責任）の取り組みに関しては、本報告書以外に当社のホームページにより詳しい情報を掲載しています。合わせてご覧いただければ幸いです。

今後もよりよい活動を進めていくために、皆様方からの当社の企業活動、環境活動に対するご意見をお待ちしています。よろしくご意見申し上げます。

### 編集体制

- ・編集委員会（広報部門、環境部門、総務部門、人事部門、事業管理部門、営業部門、商品開発・宣伝部門、購買・製造部門、海外事業部門、品質保証部門、お客様相談部門、宝ホールディングス株式会社IR部門計15名）
- ・編集責任者：中尾雅幸（環境課長）

発行責任者：木下勝仁（環境広報部長）